

Berlin Report

June 2020

CONTENTS

- * Project 1: Fluentum / Museum
- * Project 2: La Soupe Populaire / Restaurant

1. Fluentum

Project Overview

1936年ー1938年にかけてドイツ空軍のために建てられた軍事施設。その後、ナチス的なシンボルは全て取り払い、第二次世界大戦直後から1994年までは、西ベルリンの米軍司令部として使われてきた。

シックな黒光りのする大理石のエントランスは、何十年の間アメリカの歴代大統領を迎えてきたが、その後、東西ドイツ再統一を経て米軍が立ち退くことになり、持ち主が何度も入れ替わり、空き家となっていたこの場所では「イングリオル・バスターズ」「ヴァルキューレ作品」などハリウッド映画のロケも行われた。

その後、ソフトウェア企業のCEOであるマルクス・ハンネバウワーが購入。

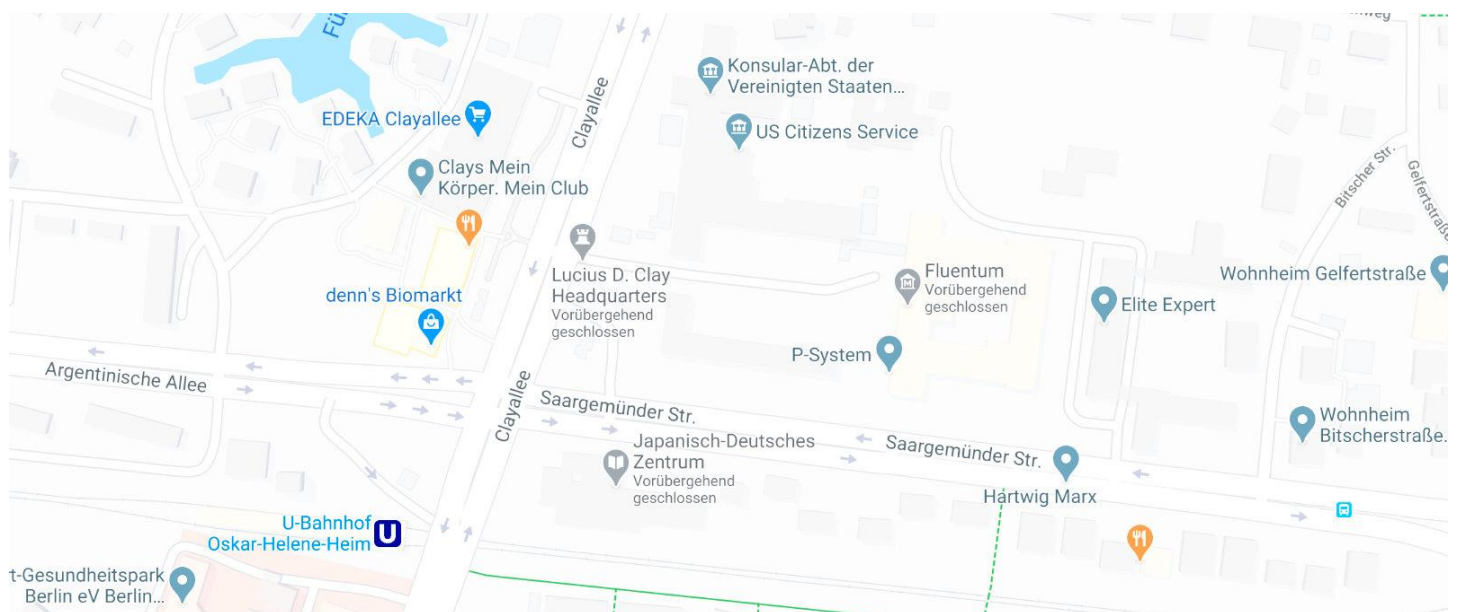
2016年から、自らのプライベートコレクションを見せる場として、建築家グループ「ザウアーブルッフ&ハットン・アーキテクト」に改装を依頼していた。ナチス時代の建築とはいえドイツの文化財保護下にあるために、改装といえど大幅に空間の形や素材を変えることは許されない。そこで、天井部分を取り外し、梁や配線などを剥き出しに見せることで、威圧感を残す重厚な建物の歴史を壊すことなく、現代的なニュアンスを与えた。

エントランス部分の天井や、そこに置かれたスクリーンの間仕切りなども同様。最低限の改装で大きな効果を。ホワイトキューブとは異なる重々しい大理石の空間が、大きなスクリーンに映し出される現代アートの世界に歴史という時間軸を与え、さらに世界観を広げる役割を果たしているようだ。

Project Details

1. Type of Business : Museum
2. Open Date: 22/04/2019
3. Location: Clayallee 174, 14195 Berlin
4. Size: 600 m2
5. Architect: Sauerbruch Hutton

LocationMap





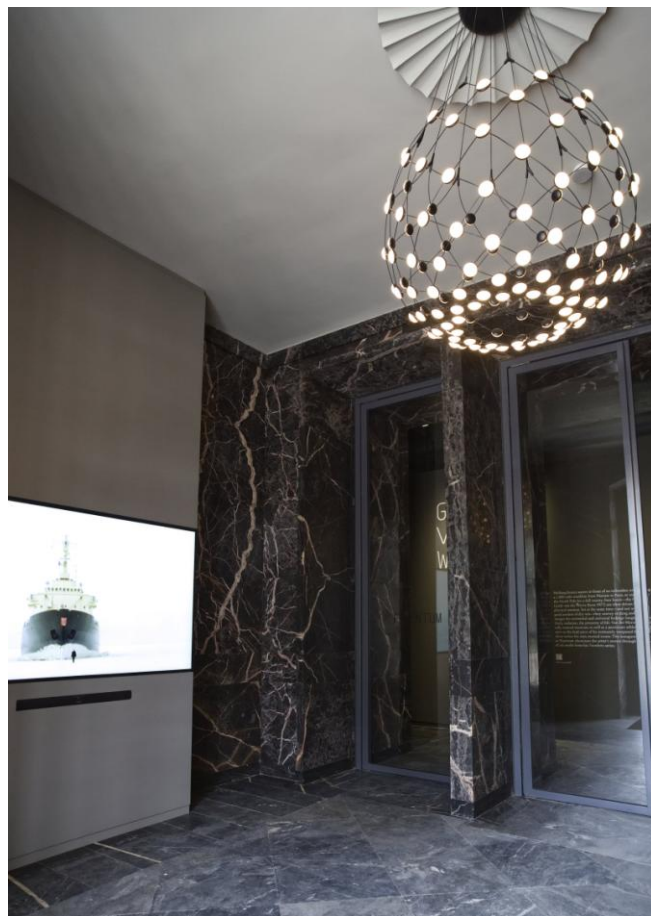
作られた当時の空間の配置や素材はそのままに、しかし天井のパネル部分を外して剥き出しの構造を見せることで、大理石の空間（ナチス時代の建築）が持つ独特の「舞台装置的な」印象を剥いでやろうという、建築家の意図もあったという。



窓や階段の手すりなどは修復を施すのみに留めているが、白い壁やアート作品との対比で現代的に見える。



「人を威圧、屈服させるための建築」を目指したナチス時代の感覚がよく伝わる正面入り口。



モダンな照明が印象的なエントランス

2. La Soupe Populaire CANTEEN

Project Overview

ベルリンの繁華街、テレビ塔があるアレクサンダー広場にほど近い、創業 1864 年のベツォウ醸造所。第二次世界大戦の際に壊滅的な被害を受け、その後東ドイツとなった建物は、東独時代には再建されることのないままになっていた。その後、この 2 万 4 千平米の敷地は「ベツォウ地区」と名づけられ、デヴィット・チッパーフィールド・アーキテクツが再建計画を担当。一部は当時の煉瓦造りの工場建築を生かし、一部は新築を建て、ブティックホテルやオフィスが集まる場所として生まれ変わった。

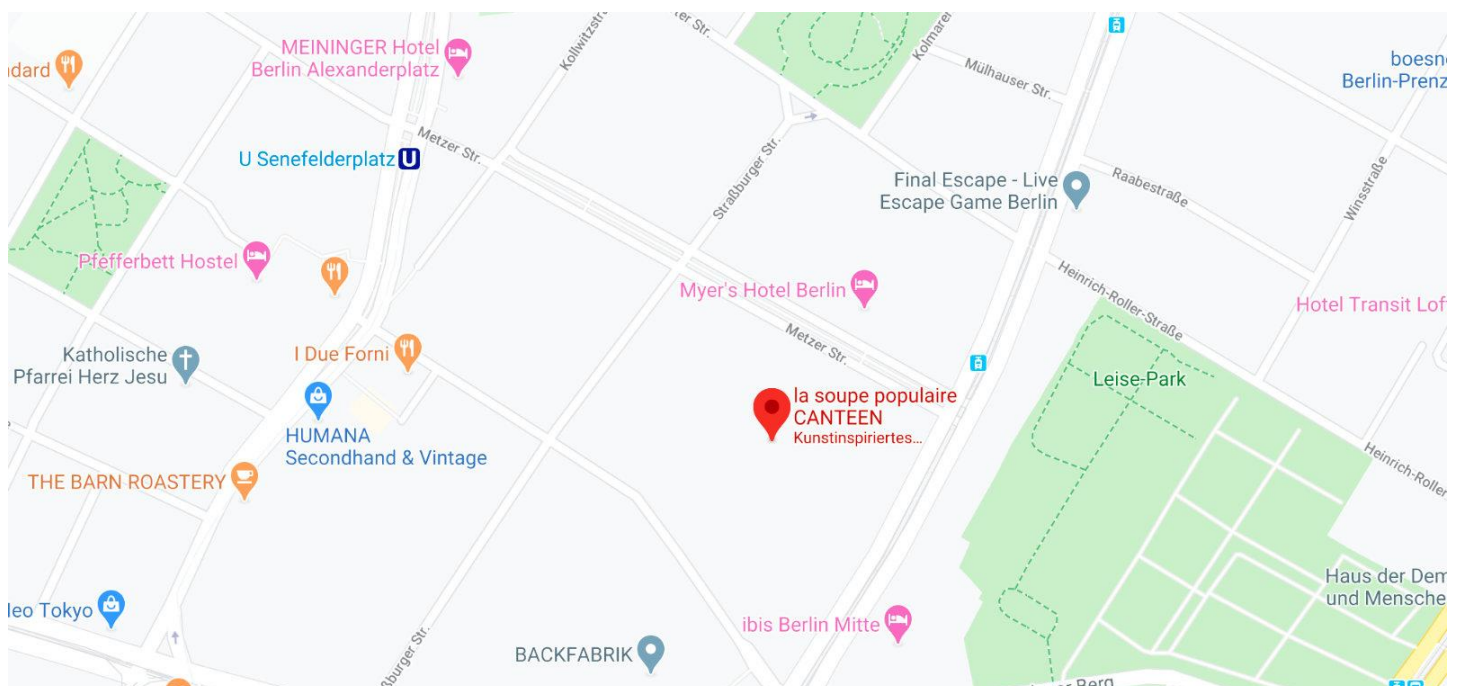
19 世紀の工場建築が持つ魅力をインテリアに活かして、2013 年にオープンしたのが「ラ・スープ・ポピュレール」である。ベルリン出身のスターシェフ、ティム・ラウエが監修したレストランであったが、改装工事が長引いたことや彼が外国でのビジネスに進出したこともあって、2016 年に一時閉店。その後、2020 年に別のシェフが料理を担当し、再オープンすることとなった。

剥き出しのダクトやコンクリートの壁を生かし、鉄鋼やリサイクル木材などを使ったインダストリアルな内装はそのままに、工場の跡地が多いベルリンならではの魅力的なリノベーション物件となっている。

Project Details

1. Type of Business : Restaurant
2. Open Date: 17/05/2013
3. Location: Prenzlauer Allee 242, 10405 Berlin
4. Size: 24000 m2 (Bötzow Areal)
5. Interior Design: Anja Mueller-Penzkofer

Location Map

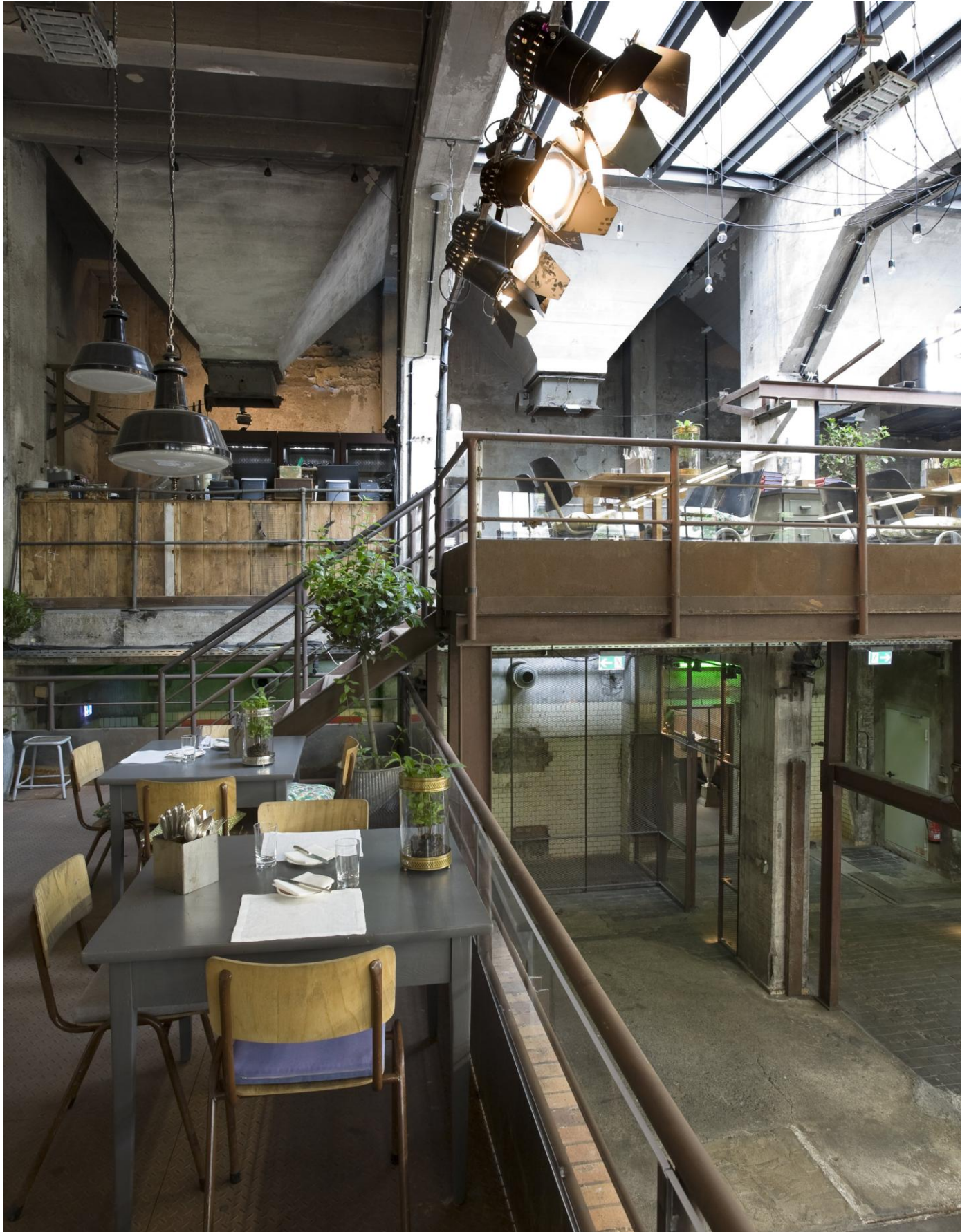




工場らしい天井の高さ、明るさも魅力の一つ。舞台に使うような無骨な照明が映える。



床や壁に残る工場時代の跡は残して活かす



錆びた鉄骨、煉瓦、えぐられたような跡、空間時代の素材間が強いので、家具自体はシンプルなものを。色味もグレートーンで揃えて。